

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立堅田小学校

〇調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

教科に関する調査では、国語科の「読むことに関する項目」、算数科の「深い理解を伴う知識の習得やその活用」理科の「地球を柱とする領域」に課題が見られました。また、記述式の問題や、いくつかの資料を読み取り答える問題の正答率が、どの教科も全国と比べて低く、本校の課題の一つであるといえます。児童質問紙調査では、「自分にはよいところがある」、「いじめを許さない」、「生活の中で幸せを感じると思う」と答えた割合が高いです。

《強み・弱み》

〈国語〉

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の項目で、回答を選択する問題については、全国や滋賀県に比べて大きな差はありませんでしたが、記述式の問題の正答率が低かったことから、昨年度に引き続き「書く力」を高める取り組みを継続します。

また、文章と図などを結び付け必要な情報を見つける問題では、全国や滋賀県に比べて正答率が低いです。「読み解く力」の向上にも力を入れて取り組んでいきます。

〈算数〉

「数と計算」の異分母の分数の加法の計算問題では、全国や滋賀県に比べて正答率が高いです。一方で、分数の加法について、加数と被加数が共通する単位分数のいくつかを説明する問題の正答率は低いです。基礎計算の方法については理解できていますが、それらを式や言葉を用いて説明することが苦手であることが分かります。

〈理科〉

「生命を柱とする領域」の項目は滋賀県と同等の正答率でした。中でも、花のつくりや受粉についての問題では、全国や滋賀県を10ポイントも大きく上回る、高い正答率でした。一方で、「エネルギー」の項目の中の、電気を通すものや磁石をひきつけるものについて問われる問題では、全国や滋賀県と同様に正答率が低く、本校でも取り組むべき課題の一つであることが分かりました。

【指導の充実に向けて】

- ☆学びの基盤を確かなものにするため、堅田小3つの約束（あいさつ・そうじ・聴く）を徹底していきます。
- ☆子どもたちの学習意欲は徐々に向上しています。学習に対する子どもたちの意欲・やる気・やってみたいという気持ちを大切に授業を目指し、より一層の授業改善に取り組みます。
- ☆基礎・基本である計算問題や新出漢字の定着について、授業や家庭学習などで繰り返し取り組んでいきます。従来のドリル学習だけでなく ICT 機器を活用し、個々の課題にあった問題を反復できるようにするなど、子どもたち自ら意欲的に学習に取り組み、基礎学力を高められるようにします。
- ☆学年の実態に応じて「書く」活動を積極的に取り入れていきます。これまでの取組で「書く」ことへの抵抗は少なくなっていることから、短時間で「書く」、条件に合わせて「書く」ということを意識して取り組んでいきます。
- ☆「読み解く力」の向上に向け、読書活動の定着・充実への取組（朝読書・読み語りなど）を続けていきます。また、図やグラフ、表などの資料の読み取りも重視していきます。
- ☆ソーシャルスキルトレーニングを取り入れることで、普段の授業・学習に相互いを尊重しながら積極的に課題に取り組む姿勢を育てます。
- ☆家庭・地域・学校で、子どもを認めほめる取組を進めていくことで、子どもたち一人ひとりがより一層自己肯定感を感じられるように取り組みを進めていきます。